

S&Uだより

2021年1月10日

(株) マルジン

福井 TEL 0778-27-7200 FAX0778-27-7201

名古屋 TEL 0586-81-1895 FAX0586-81-1896

新潟 TEL 0258-94-5772 FAX0258-94-5773

福島 TEL024-983-3970 FAX024-983-3971

safety & useful 発行 No278

コロナに始まりコロナに終わった2020年、新しい年が明けた途端 希望が広がるのかと思いきや・・・
感染者数はとどまるどころか 毎日どんどん増え続け どうとうまた 緊急事態宣言が発令されることとなりました。
慣れというものは恐ろしいもので 第一波の時とは明らかに大きな数字に関わらず さほど緊張感が無いのが現状です。
「4名以上 5名以上の会食は控えて」と言っているその 政府関係者
や議員など 当事者が多数会食を行い やり玉に挙げられたりして
います。

日本医師会の中川俊男会長が1月6日午後緊急記者会見し、政治家たちをこ糾弾しました。「医療提供体制の確保と、新型コロナウイルスを正しく恐れ冷静行動を取るよう、啓発に重点を置いていただきたい。そのための提案をします。緊急事態宣言下においては、全国会議員の夜の会食を人数に関わらず、全面自粛してはいかがでしょうか。国会議員に範を示していただきたい。まず隗(かい)より始めよ、です。そのような行動が必ず国民の一部に生じた緩みの解消につながります。

4人以下の会食なら感染しないと思えば、それは間違いです」

「隗より始めよ」とは、「大事業などの遠大な計画は手近なところから行こう」という意味の表現、あるいは、「物事に挑戦するに当たっては

最初に言い出した者がまずは取り組むべきだ」という意味の表現です。中国の史書「戦国策」に由来する故事成語といわれています。医師会会長の引用としては「言い出しっぺが先に始めないでどうしますか？誰もついてこないでしょう？」と皮肉の意味合いだと思われま

す。言いたくもなるでしょう 医療関係者は 休みも返上で治療に追われているのに 船の先導を務めるはずの政治家は 先ずは支持率 自分の今後が大事で 休みを返上して国会を開くでもなく「〇〇を検討している」というに留まり、何もしていないように見えます。その上に 今頃になって「会食4人以上は控えようと 党内の規則を作っている」とまさかと思える言葉が出ると「今 その時点ですか？」と、がっかりしてしまいます。本当は違うのかもしれませんが・・・

「テレワーク」「デジタル庁」などという言葉だけでなく 今こそ在宅で国会を開くとか 分科会でコロナ対応を決めるとか 何か 始められるといいですね。利害関係も絡んで なかなか難しいのでしょうか 遅さばかり目についてしまいます。昨年11月の兵庫県丹波市長選で、全市民に現金5万円を給付する新型コロナ禍支援対策を公約に掲げて初当選した市長が、1人2万円分の商品券を配布する代替案で調整していることが分かったそうです。当選してみたら そういう予算が組めないことがわかった・・・のでしょうか、あっという間に「公約」を覆すのでは それは市民としては言いたくもありませんね。「約束」の重みを「隗より始める」のであれば 自分の考えが間違っていたことを市民に詫言 職を退く もしくはこのまま市長の座にとどまるのであれば「給与返上で働く」とか 意思表示をすれば市民もある程度共感するのではないのでしょうか？菅総理も 何か国民の心に響く言葉で コロナに対する心情や 財政事情など語れば 支持率もおのずとついてくるのではないかと思おうのですが・・・。なんだか いろいろが 人災のように思えてしまい 残念なことです。

結局のところ そういう人を選らんでいるのも私たちであるという事は 忘れてはならないのですが。

ともかく なんとか収束してほしいコロナ、しかし、思いだけでは収まる気配もなく あれよあれよという間に 30万を超える一歩手前です。6700万人の人口のイギリスが280万近く上る感染者数となっており 毎日5万人もの新規感染者が出るという大変な事態となっています。感染力の強い変異種は すでに日本でも 国内で発見されており イギリスのような事態に陥ることも考えられます。ワクチンの接種も 海外では始まりつつあり 日本でも 3月に開始される予定だそうです。他に絶対なる確信のある対策はみあたりませんが ともかく祈るしかありません。なんとか克服できますように・・・



マルジ 1月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	31	25	26	27	28	29

～大雪です モノレールは？

年明け早々 北陸は大雪に見舞われました。
48時間立ち往生にも
巻き込まれたマルジンマンもいました。
現場の状況はいかがでしょうか？
積雪がある場合は モノレールの運転は
安全を十分確認の上ご利用ください。

2021年1月第278回は～印鑑は無くなるのでしょうか？～について

今のところ 当社ではさほど実感がなかったのですが 社会保険の添付書類の廃止や 署名・押印の省略の動きは進んでいるようです。中途採用の手続きで届を提出しに社会保険事務所に行ったところ、「もうすぐこの用紙も新しくなって 会社の印鑑押さなくてもよくなりますよ」とのことでした。

行政手続き上の押印廃止をめぐり、すべての府省庁の検討結果がまとまり、およそ1万5000種類の手続きのうち、印鑑登録などが必要な83を除いた手続きが廃止される方向になり、いわゆる「認め印」はすべて廃止される見通しとなったようです。随時 印鑑を押さない手続きが増えていくものと思えます。

資本金1億円の事業所は必須で 電子申請が進んでいるはずですが(こちらの社会保険事務所でも 実感はないようです) 所員さん曰く「詳しくないので」だそうですが。Gビズ、eGovという二種類の申請アプリがあるのですが 一長一短あるようです。当社はまだ必須ではないのですが 電子申請を始めても 紙での提出も併用できるとのことですので ともかくやってみようと思っています。

社会保険事務所などの提出用紙に関しては 事業所番号(個人で言うところのマイナンバー「法人番号」)を記入するわけですから 個人と同じように「マイナンバーひとつでまかなえる」ようにするということでしょう。さて どうなることでしょうか？今のところ 省庁も横並びというわけにいかないようですし システム一つにしても共用できない無用の長物があふれているらしい話も出ています。コロナで浮かび上がってきた日本の 世界とのかけっこに何周も遅れた機能を どんなふう構築していくのか？はたまた 後れを取ったままで終わるのか？大変気になるところであります。

河野規制改革担当大臣の要請が報道されたこともあり、ハンコ不要論が力を得た感があります。前政権時に、「日本の印章制度・文化を守る議員連盟(はんこ議連)」の会長を務めていたIT担当相が、「はんこがテレワークで問題になるのは民間同士の話」とコメントして物議を醸してから半年も経っていないことを考えると、大きな変化だと思えます。

もともと、新型コロナウイルス感染拡大とともに自宅勤務が増加した際、押印だけのために出社が必要となるケースがあるということで、デジタル化を阻むものの象徴的な存在として印鑑がとりあげられるようになったと聞いています。

「日本では長年印鑑が使用され、生活に定着しているので軽々に変えるべきではない」「全国のはんこ屋さんが仕事を失うのは困る」といった点にも議論が広がっており、やや収拾がつかなくなっている感もあるようです。

また、金融業務における書類押印の主な利用シーンは、(1)顧客や取引先との契約や取引に必要な書類のやり取り、(2)公的機関に対する手続きや報告にともなう書類の提出、(3)組織内での稟議や届出などの手続き、などが挙げられます。そして、印鑑を利用する目的としては 以下のようなようです。

・認証手段

契約や取引に際し、押印で本人行為を確認することである。

いわゆる「なりすまし」の排除など、他人の行為でないことが確認できる厳密さも必要とされる。

・確認手段

組織内のビジネスプロセスにおいて、押印によって承認行為を確認することである。

「承認」「受領」といった行為の確認で、認証ほどの厳密さは必要とされない。

・装飾手段

「顧客に安心感を与える」「証書の権威付け」「賞状の見た目がよくなる」といったイメージアップのための印鑑利用である。

しかし、技術的な観点からみると、印鑑を認証手段として利用することのリスクは明らかに高まっています。

本人行為の確認は押印された印影と事前登録された印影の一致を見ることで実現していたが、3Dプリンターの精度が高まったことにより、印影さえ入手できれば印鑑の複製が可能となっているのも事実です。

ある銀行の数年前の実験によれば、印鑑簿から業務用の3Dプリンターを使って作成した印鑑で押印した印影を営業店の窓口で使用している真贋判定機にかけたところ、「真正」と判断されるという結果が出たそうです。

実験対象としたのは個人の取引印として登録された印影だったとのことですが、医療分野において毛細血管の再現まで3Dプリンターで可能となっていることを考えると、実印や法人取引印などの複製も技術的には充分可能と考えられます。

また、技術的な面とは別に、本人以外が代理で押印できてしまうことはこれまでも問題となってきました。超高齢社会の進展により、家族が通帳と印鑑を持ち出して本人の同意を得ずに預金の引き出すといった問題も多く発生しており、金融機関の窓口では身分証明書提示などで本人確認を実施する運用が一般化しています。

「免許証」などで本人確認するということになると マイナンバーカードの紐づけ そして健康保険証、年金手帳など カード一枚で賄えるというのであれば便利です。そこに 銀行のキャッシュレスカードとなれば・・・便利ですが

落としたりしたら？すべて止まってしまうわけで リスクも大きくなるでしょうね。

2021年が明けどんな風に変化していくのでしょうか？実際問題で言えば・・・このリモート化 そしてコロナの緊急事態宣言の状態であるのに 名刺を持ってとりあえず役所に新年のあいさつに馳せ参じている業者も あまり減っていないらしいという日本、何を大切にしていくのか？何を省略していくのか？印鑑の行く末を見守りながら 合わせて大きなうねりも見つめていきたいと思えます。